

# 「探求と創造 ～進化を続ける青年部～」

～コロナ禍においても絶やさぬ青年部活動～

## 2021-2022 事業報告書

工組・支部名 : 北海道電気工事業工業組合青年部連合会 札幌支部  
資料提出日 : 2023年1月17日

### 1. 【事業名】

【区分】  新規事業 ・  継続事業 ( 期日 ) ※該当事業を選択してください。

【分類】 ( A ) 下記 A～F より選択してください。

A:意見交換会	B:体験型	C:ボランティア	D:交流	E:研修
F:寄贈・寄付	G:制作・製品化	H:提携	I:コンテスト	J:その他

### 2. 【実施日時・作成者】

実施日: 2023年1月14日(土)16:00～

作成者: 中村 貴裕

### 3. 【実施場所】

ホテルノースシティ(札幌市中央区南9条西1丁目1-20)

### 4. 【提言書2020との適合性】 本事業に当てはまる項目番号と提言書ページ数をご記入ください

提言書2020 ➡ <https://tinyurl.com/yhrft7xb>

①人材育成と後継者育成 (P.5～) ②組合員の経営安定化の支援 (P.12～)

③技術・施工品質の向上と経営能力の向上 (P.16～)

◎項目番号: ③青年部の未来、あるべき姿 ◎提言書ページ: P38～

◎提言書にない場合: \_\_\_\_\_

### 5. 【事業目的】

数年後には組合員はもとより青年部員が半分くらいに減ってきます。

札電協青年部を絶やし活動札電協青年部を絶やし活動を止めると言うことは本部にとって  
もいい結果を生みません。そこで次年度に移行前に青年部員から率直な意見や要望を聞き、  
少しでも青年部員が活動しやすい環境づくりを整備して行って、新たな部員も入部しや  
すく、これから数年先の青年部員も今以上に業界を盛り上げられる、また自己の成長に繋  
げられるような魅力あふれる札電協青年部を目指すため

### 6. 【事業内容】

意見交換会と懇親会

### 7. 【参加員数】

30名

### 8. 【外部協力者】

なし

### 9. 【事業総額】

100,000円

### 10. 【事業の成果・PRポイント】

- ・ KJ法をつかい意見交換会をしたことで問題点と課題そして未来に向けた意見が出てきた。
- ・ 入部1年未満の青年部員も沢山意見や要望を出してくれた

# 「探求と創造 ～進化を続ける青年部～」

## ～コロナ禍においても絶やさぬ青年部活動～

- ・ 札電協青年部は継続事業が多いが多くの部員は伝統を守りつつ進化をさせた事業がしたいことがわかった

### 11. 【反省点または工夫した点】

- ・ 今回の事業は基本的に部長・副部長・会計で企画立案をして、役員で仕事を分担して行なった。事前に全部員に向けてアンケートを取ることによって進行者がスムーズに行えるよう、また意見が出やすいよう努めました。

#### 【話し合いで出た意見】

##### <やってみたいこと>

- ・ 自分たちでお祭りなどに来店などをしてお金を稼いで、委員会などに出席した青年部員に日当等を払い委員会参加者を増やす
- ・ 自社社員は青年部活動に不信感があるため、事業ポスターなどを作成し組合員に配布して内容を伝え、委員会などに参加しやすいようにする。
- ・ 青年部活動を自社社員に見学してもらう（事業や委員会など）
- ・ 継承している事業に思い入れがないため、新規事業に立ち上げ一から作り実行する。または事業を継承しつつ進化させることによって自分たちの思い入れのある事業を作っていく
- ・ 社長候補が多く所属するので、2代目・3代目に響くスキルアップ研修会の開催
- ・ SNSの登録者数の目標を決め、達成するように配信方法を確立していく
- ・ 1委員会ごとに事業を行うのではなく、札電協青年部全体で大きな事業を行う
- ・ 活動が多いので、事業数や活動日数の縮小(1年目企画 2年目実行など)
- ・ 最初から飲み会のみの日を作り、札電協青年部同士で交流したい
- ・ 地方単協とのコラボレーション
- ・ 家族レク・社会貢献活動は役員会事業へ(事業の体制見直し)

##### <部員増強について>

- ・ 女性部員の増強(女性ならではの目線の活用)
- ・ 電材卸売業組合と連携
- ・ OBに入部協力を要請する
- ・ 準会員の設置
- ・ 親会との連絡協議会を開催
- ・ 青年交流会・支部総会参加・活動ポスターの復活
- ・ 組合員の若手社員を集めて交流懇親会をする

##### <委員会について>

- ・ 各部員に所属したい委員会のアンケートを取り配属する。または興味のある委員会に参加してもよい
- ・ 開始時間の変更(日中などに)
- ・ 参加している人間のみが現状事業内の仕事が集中するので、委員会全員に仕事を振る

##### <その他>

- ・ 土曜日の事業は参加しづらい(家族との時間が減る)
- ・ 独身者は家族レクに参加しづらい
- ・ 活動に関して家族や社員の目が厳しい
- ・ お金がかかる
- ・ 時間がとられる
- ・ 中央会などの参加で業界他業種の仲間が増える。
- ・ 青年部員の他社同士の繋がりができる

# 「探求と創造 ～進化を続ける青年部～」

～コロナ禍においても絶やさぬ青年部活動～

## 12. 【別添資料（写真・動画等）】 ※事業活動について掲載したホームページや SNS 等の URL を記載

### ①開催前事前アンケート集計





# ＜新春賀詞意見交換新年会 アンケート集計＞

## ① 入部のきっかけ

- ・会社社長、他社先輩、知人、青年部員からの勧誘
- ・会社、上司、先輩の指示・命令、知らないうちに入部していた
- ・社員の卒業をきっかけに入部
- ・異業種からの転職だったので人脈作りの為に現役青年部を探して入部
- ・他の電気業者との繋がりを作りたく入部
- ・各支部の総会や行事をきっかけに

## ② 入部前の青年部のイメージ

- ・青年部の存在を知らなかった、何をしているかわからなかった
- ・いつもお酒を飲んでいる人たち、朝まで飲んでいるイメージ、仲間意識が強い
- ・大変そう、厳しそう
- ・体育会系のイメージ、怖いイメージ
- ・同世代の同業社との出会える2代目サロンのイメージ
- ・人見知りだから、溶け込めるか不安
- ・くだらねえ。めんどくせえ。俺には合わねえ。
- ・「堅い」イメージ
- ・地域貢献に力を入れている

## ③ 入部した時青年部に求めていたこと（やりたかったことなど）

- ・仲間・人脈づくり、情報交換
- ・自社ではできない社会勉強
- ・出会いの輪を広げ、ありがとうと言って貰える地域貢献活動
- ・社員教育的なもの
- ・社外の人と交流を持ちたかった
- ・業界活性化や、業界内での助け合い等
- ・先輩から業界や経営の知識を吸収
- ・上司の指示だったので、最初は行きたくなかった
- ・現場に出ていた頃だったので、委員会を減らしてほしい

## ④ 入部後一番に感じているメリット

- ・人脈が広がった、業界の仲間が沢山出来た、会社同士のつながりができた
- ・相談できる仲間ができた、経営者同士の話ができた
- ・仕事につながった
- ・各会社のルールなど情報交換ができた
- ・事業を行うにあたり事業計画書・予算書・運営・決算書を作成することの大切さを知りました
- ・青年部事業は自社だけでは出来ないことを沢山体験できる
- ・事業を通じて色々な経験・体験
- ・組織というものを意識できた
- ・時間の使い方・作り方を学んだ
- ・全国大会・全道大会・その他旅行
- ・工業高校生徒との関わり（インターンシップなど）
- ・右も左も判らなく、世間の常識もない自分を成長させてくれた。学ばせてくれた。
- ・自分より年齢が上の人との会話、コミュニケーション
- ・部外の調整能力の構築力
- ・委員会後の飲み会で苦労話や馬鹿話をしてストレス解消になったり、美味しいお店を教えてもらえた
- ・委員会と役員会で会議の運営方法を学び、社内の会議で活用し会議が円滑に進んだ。
- ・大人になってからの友達が出来た

## ⑤ 入部後一番のデメリット

- ・仕事と青年部事業の時間的両立が難しい、時間が作れない・調整が難しい
- ・責任がある立場（役職やある部分の担当）になった際、青年部業務の負荷の集中
- ・自社の業務と青年部の事業を両立させようと思うと余裕がなくなる
- ・家族からの不満、家族との時間が減った。また、家族、社員の信用を取るのが難しい  
反面得られるものも多い
- ・イベントを欠席すると毎回運営側に申し訳ない気持ちとなる
- ・いつの間にか青年部活動の空気を考えて仕事を入れるようになった
- ・皆頑張っていて取り組んでいる中、何も出来ないと劣等感を感じる。
- ・委員会以外での場での交流が少ないこと
- ・繁忙期になると委員会等に参加できず申し訳ない気持ちになる
- ・忙しくて行事や役割分担をお断りばかりしているので心苦しい。
- ・青年部というだけで、親会から若造扱いされること。同じ代表者なのに。

## ⑥ 青年部でやってみたい事業

- ・お祭り、雪まつり
- ・毎年同じ場所で行うイルミネーション事業（もはや恒例と言われるような）
- ・よく青年部の垣根を越えて…事業を行います但結局1委員会が運営することが多いので
- ・青年部全体で事業を行い、みんなで達成感と満足感を味わえるような事業を行ってみたい
- ・青年部事業で収益を得て事業費に充てる。親会から補助を受けないことで親会に気兼ねすることの無い、幅広い事業展開を行う
- ・小中学生向けの出前講座（電気業界を小さいうちから刷り込みたい！）
- ・避難・防災・救命等の訓練、AEDなど普段触れる可能性がある物を使える状態にしたい。  
(札幌市の入札では総合評価の評価項目となっており、札幌市との共同開催がベスト)
- ・組合員向けセミナー（技術・申請・法務など）勉強会を実施しての親会への提言
- ・YouTubeでプロモーションビデオ制作(短編ドラマ風)
- ・未婚の青年部員を集めて婚活パーティーを開催したい！
- ・電気工事とは何か。どんな事をするのか等の作品作成・電気系資格取得者の援助
- ・青年部と他団体(専門学校など)の共同制作
- ・電気工事業感謝祭みたいなお祭りとか出来たら面白そうだと思います
- ・学生がカッコいいと思う(着たくなるような)現場作業着のデザインコンペ
- ・イルミネーション等冬に向けての事業が多く感じるため 春夏をメインとした事業
- ・飲み会

## ⑦ 部員数を増やす為にどうすれば良いか

- ・事業の発信が大事かと思えます。この業界の入職者数が増加し青年部に入っていたことが出来ると思えます。
- ・親会にも働きかけて、定期的に事業へのスポット参加・飲み会などの懇親を行い青年部の良さを体験してもらう
- ・会費減額(直接対策)
- ・電気業界の人手不足解消(長期対策)→出前授業の積極開催、頻度を増やす
- ・OBを含めた周知へのアプローチ
- ・仕事に直結するような事業や工業高校の就職斡旋についても青年部優先を強かに打ち出せば増えるかもしれない。
- ・事業の発信力のさらに強化し、どのメディアからも札幌電協青年部の事業が見れば組合内外の電気工事会社ももっと認知し、入部のメリットになる可能性もある。
- ・青年部での即物的な利益向上・利益の見える化
- ・親会?の協力のもと、各会社さんの良さを上げてもらう。自社の人間の、体験入部を実施してみる。(委員会も行事も含めて)
- ・コロナが問題なければ各支部の行事に参加しチラシ配布や声掛け
- ・部員拡大の専門委員会の設立
- ・青年部OBの会社から新入部員を募る。そのためには、青年部が現在どんな事業をやっているかOB向けに情報発信が必要だと思う。

- 現在、青年部ホームページの更新がストップしている。ホームページ更新は手間がかかるため Twitter・Instagram・Facebook 等の簡易な情報発信に切り替え、青年部 OB に情報発信して新入部員を増やせればと思う。
- 現部員が楽しんで活動できれば、入部希望者は増えるのではないのでしょうか
- 活動を通して、どういう結果を得られたかという事を我慢強く組合員・非組合員に認知する活動をする事ではないかと思われます。
- どうして部員数を増やす必要があるのか？伝統だからでしょうか？
- とにかく注目されるような事をする（楽しい系）
- 知名度を上げ、メリットを広く伝える・イメージキャラクターの制作等
- 組合所属各社に青年部として訪問させていただき募集する
- 業務の簡素化
- やらなきゃいけない事を減らす。
- 勧誘または人の目に触れる所への掲示物
- 人材の確保。業務での。
- 紹介した側にメリットを作る
- 卒業年齢を見直す(社員高齢化の為)
- 漫然と増やしていくと実のない表面上の数字になりかねないので「どのくらいの組織規模で何をやりたいか」を明確にして、それに賛同してくれる仲間を集めたほうがいいと思います。

## ⑧ 青年部に求める事

- 上限45歳までなので時間は限られています。どうせなら楽しく・実りある青年部活動をしていければ良いと思います。
- 時折、得意な人が見守り専門知識のない人達が一生懸命作りあげる事業があると、大きな達成感が得られ、個々のスキルアップに繋がる気がします。
- 本業と働き方改革と青年部活動とのバランス
- 個々の人材育成 仕事に関して青年部間のネットワーク強化
- 所属企業同士の横の繋がりの強化、繁忙期のヒトの融通強化、青年部員の日頃のストレス発散の場
- 中高生へのアプローチ（就職的な）、一般市民へのアプローチ（電気業界の紹介）
- 残り少ない活動期間の中で今更求める事は無いですが、コロナも落ち着いてきてもっと議論の時間を増やせれば良いと思う。ここ数年でコロナもあり集まりづらい環境化で役員など少人数での決定が青年部の決定になっている様に見える。集まらなると議論が出来ない時代では無いのもっと全部員が声を上げやすい風通しの良い環境づくりを残された期間でやりたい。
- 青年部という呼び方を変えてほしい。
- 北海道電力への提言・親会への提言を通じて、組合員・電気工事店の利益の最大化に貢献してほしい
- 若手の成長を促す為、会議・役員会等の参加枠を増やす。
  - 委員会の進行を部員にやってもらったり、役員(委員長・副委員長が忙しい時期)の代理をできる制度をつくる。
- 他委員会との交流を増やす
  - 他の委員会でも参加できる様にする
  - 他の委員会の事業でも協力できる体制を作る
- 先輩方が作った青年部事業の歴史は大事だと思うが、それをぶち壊して新しい事業を発案しチャレンジしてほしい。
- あまり事業を多くせずの一つをじっくりやってみたいです。一年で一つしかやらないけど一年かけて作り込むとか。
- 青年部の中だけでは、部歴も年齢も会社（仕事）も関係なく上下関係のない、みんなが対等な組織であってほしい
- 繋がりや多くの事を学び、切磋琢磨出来る環境。楽しめる時間。
- 一人一人が活躍できる環境
- 顔見知り関係を作る機会、会社では言えない悩みの相談
- 出来る限り1人の負担を抑える事
- やりがいと事業を楽しめるようになりたい
- 優しくしてください。
- 電気業界への貢献